



名鍍会報告

2019. 8

名鍍会の4月例会は、塗装組合の青年部「青経会」と合同で、4月26日（金）19時より、TKPガーデンシティ栄駅前の会議室にて開催された。

今回は、トヨタ自動車にてレクサスの開発に尽力された、余合ホーム&モビリティの余合繁一社長様をお迎えし、「100年に一度の大転換期／CASEの時代のトヨタの構え」をテーマにご講演いただいた。その後、名鍍会の二村幹事と余合社長との対談形式で、さらに掘り下げてトヨタや自動車業界の展望を伺った。



講演内容の要点

- 電動化について、すぐEVに切り替わらないが、流れは止められない。エンジン、トランスミッションは半減するが、MaaSは増えるので、MaaS関連のサービスやものづくりの市場も出てくるのではないかと。
- EVがHVより多くなるタイミングはわからないが、シェアリングは世界中で広まっており、その影響でEVは増えていく。
- CASEが進むために必要なキーデバイスは、ハッキングされない「セキュリティツール」と、エンジンから決別するための「バッテリー・電池」である。



自動車業界に携わる会員が多い名鍍会にとって、トヨタ自動車をよく知る方から貴重なお話をざっくばらんに聞くことができ、非常に有意義な例会であった。 Y. M.